

政権交代から四ヶ月。

この間、我々が目にしてきたものは、あまりに稚拙な政権運営と二重権力構造、鳴り物入りで発表したマニフェストの破綻、金にまつわる数々のスキャンダル、総理の言葉の軽さなど、目を覆いたくなるような醜態ばかりだ。

「口程にもない」とは、まさにこのことである。

このような政党に、我々は負けた。

国民が騙されたからではない。政権担当能力もマニフェストの実現性も、あてにはならないことを承知の上で、それでもなお、多くの国民がわが党ではなく、民主党を選んだ。

その動かし難い現実に思いを致し、深く反省することこそが、わが党再生と政権奪還への第一歩である。

国民は既に、パフォーマンス政治の成れの果を見極めており、今さら民主党の後追いをしたところで、得られるものはない。

今、わが党が為すべきことは、「政治は国民のもの」との、わが党の原点に立ち返って陋習を排し、党運営、政策立案、候補者擁立などの全てにわたって国民の声に注意深く耳を澄ますこと。そして、開かれた議論を経て一度決定したことについては、党内一致結束して断行することである。

昨日の分科会においては、民主党との対立軸を鮮明にすべしとの発言が相次いだ。

皇室の軽視と言ひ、外国人参政権の問題と言ひ、鳩山民主党政権の手によって、刻々とわが国そのものが溶解させられようとしている今こそ、保守の旗を高く掲げ、我々の愛してやまない日本国の国益と日本国民を守りぬく決意を固めて、現政権と戦わなければならぬ。同時に、一刻も早く党再生を成し遂げて国民の信頼を取り戻し、この国の未来を確かなものとするのが、我々に課せられた使命だ。

国家と国民の危機を前にして、「野党になったから」などという言い訳や泣き言は許されないのである。

昨年九月、我々は谷垣総裁を選出した。

全ての国会議員と百万を超える党員・党友による総裁選挙で、党再生と政権奪還を谷垣総裁に託した以上、我々には、全力で総裁を支える責任があるということ、ここで改めて確認したい。

谷垣総裁におかれては、我々党員・党友に対する遠慮は一切無用。

総裁が「みんなで作ろうぜ」と呼びかければ、これに応じて立ち上がるのが、我々党員・党友の心意気である。

確固たる自信をもって、全党に号令を発していただきたい。

新綱領を採択し、本年の運動方針を決定した今、我々が為すべきことは、谷垣総裁のもとに、あらん限りの英知と、持てる力の全てを結集し、来る参議院選挙を勝ち抜くことのみである。

今日ここに集った党員・党友とともに参議院選挙必勝に向けた覚悟を新たにし、今この瞬間から、戦って、戦って、戦い抜くことを固く誓うものである。

平成二十二年一月二十四日

ブロック分科会代表

高知県支部連合会幹事長 武石利彦